

小中一貫教育校の施設整備に関するアンケート（まとめ）

1 調査概要

| | | |
|--------|-----------------------------------|--|
| 調査期間 | 平成 27 年 5 月 27 日～6 月 26 日 | |
| 調査票送付先 | 105 校（うち 13 校から施設一体型一貫校ではない旨回答あり） | |
| 回答数 | 64 校 | |

2 学校規模

| | | |
|-------|--------------|------|
| 児童生徒数 | 270 人以下 | 23 校 |
| | 271 人～540 人 | 15 校 |
| | 541 人～810 人 | 12 校 |
| | 811 人～1000 人 | 6 校 |
| | 1000 人以上 | 6 校 |

3 小中一貫教育校開校に伴う学校施設の設置状況

| | |
|----------|------|
| 新設・全面改築 | 31 校 |
| 既存の校舎を改修 | 23 校 |
| その他 | 10 校 |

4 校舎と主な使用学年

| | |
|---------------|------|
| 1～9年で同じ校舎を使用 | 28 校 |
| 1～6年、7～9年で区切り | 13 校 |
| 1～4年、5～9年で区切り | 7 校 |

5 学校施設について

【プール】

- (1) 整備数 1つ（32校） 2つ（27校） 外部利用（2校）
- (2) 温水プール （6校）
- (3) 水深の調整方法
- | | | |
|----------|-----------|----------------|
| 床可動式（9校） | 水位調整（22校） | すのこなどによる調整（8校） |
|----------|-----------|----------------|
- (4) 共有している場合、時間割調整などで工夫していることや課題など
- ① 9 学年分の水泳授業の時間割調整が困難（16 校）
 - ② 9 学年同時期に水泳授業を実施することが困難なため使用時期を分散（11 校）
 - ③ 9 学年の身長差が大きいため、水位調整に時間がかかる（10 校）
 - ④ 9 学年の身長差が大きいため、水位調整で多くの水を使用する（8 校）
 - ⑤ 複数学年で同時に使用することがある（15 校）
 - ⑥ 特に問題はない（9 校）

- (5) 共有している場合、共有のメリット
- ① 1つのプールを全教員で管理すればよいので負担軽減になる (18校)
 - ② プールの維持費 (水道代・薬代など) の節約につながる (31校)
 - ③ 複数学年で使用する場合、監視する教員の数が増える (15校)

【体育館】

- (1) 整備数 1館 (30校) 2館 (33校)
- (2) 複数ある場合、使用学年の区分
 - 1～6年、7～9年 (24校)
 - 1～9年 (3校)
 - 1～9年、1～2年 (2校)
 - 1～4年、5～9年 (1校)
- (3) 共有している場合、時間割調整などで工夫していることや課題など
 - ① 9学年分の体育授業の時間割調整が困難 (14校)
 - ② バasketゴールの高さなどは調整可能 (19校)
 - ③ 使用する体育器具が異なるため、器具の準備に時間がかかる (4校)
 - ④ 使用する体育器具が異なるため、器具の管理・整備が大変 (6校)
 - ⑤ 複数学年で同時に使用することがある (20校)
 - ⑥ 共有しているが、十分な広さがあり、特に問題はない (13校)
- (4) 共有している場合、共有のメリット
 - ① 学級数・児童生徒数が少ないので1体育館で十分である (15校)
 - ② 1体育館にしたことで体育館が広くなり、多様な使い方が可能である (11校)
 - ③ 体育館の維持費 (電気代など) の節約につながる (10校)
 - ④ 体育器具などを小中で融通しあえる (20校)

【校庭】

- (1) 整備数 1面 (32校) 2面 (31校)
- (2) 夜間照明設備あり (23校)
- (3) 複数ある場合、使用学年の区分 (1～6年、7～9年など)
 - 1～6年、7～9年 (18校)
 - 1～9年 (4校)
 - 1～2年、3～9年 (1校)
- (4) 共有している場合、時間割調整などで工夫していることや課題など
 - ① 9学年分の体育授業の時間割調整が困難 (12校)
 - ② 小学生と中休みと中学生の体育授業がぶつかる場合、双方で配慮が必要 (20校)
 - ③ 1つの校庭を低学年と高学年で区切って使用している (5校)
 - ④ 共有しているが、十分な広さがあり、特に問題はない (19校)
- (5) 共有している場合、共有のメリット
 - ① 学級数・児童生徒数が少ないのでグラウンド1面で十分である (14校)
 - ② 1面にしたことでグラウンドが広くなり、多様な使い方が可能である (10校)
 - ③ 体育器具などを小中で融通しあえる (24校)

【家庭科室】

- (1) 使用学年の区分
5～9年 (23校) 5～6年・7～9年 (15校)
- (2) 共有している場合、時間割調整などで工夫していることや課題など
 - ① 5学年分の家庭科授業の時間割調整が困難 (9校)
 - ② 調理台・被服台の高さは調節可能 (2校)
 - ③ 調理台・被服台の高さが合わない児童がいる (11校)
 - ④ 特に問題はない (26校)
- (3) 共有している場合、共有のメリット
 - ① 学級数・児童生徒数が少ないので1家庭科室で十分である (14校)
 - ② 調理器具などを小中で融通しあえる (43校)

【音楽室】

- (1) 整備数 1室 (22校) 2室 (36校) 3室 (5校)
- (2) 複数ある場合、使用学年の区分 (1～6年、7～9年など)
1～6年・7～9年 (30校) 1～9年 (5校)
1～4年・5～9年 (1校) 1～2年・3～9年 (1校)
- (3) 共有している場合、時間割調整などで工夫していることや課題など
 - ① 9学年分の音楽科授業の時間割調整が困難 (3校)
 - ② 椅子や机の高さは調整可能 (0校)
 - ③ 椅子や机の高さが合わない児童生徒がいる (7校)
 - ④ 使用する楽器が異なるため、器具の準備に時間がかかる (2校)
 - ⑤ 使用する楽器が異なるため、器具の管理・整備が大変 (4校)
 - ⑥ 特に問題はない (18校)
- (4) 共有している場合、共有のメリット
 - ① 学級数・児童生徒数が少ないので1家庭科室で十分である (12校)
 - ② 調理器具などを小中で融通しあえる (17校)

【理科室】

- (1) 整備数 1室 (14校) 2室 (22校) 3室 (24校)
- (2) 複数ある場合、使用学年の区分 (3～6年、7～9年など)
3～6年・7～9年 (33校)
- (3) 共有している場合、時間割調整などで工夫していることや課題など
 - ① 7学年分の理科実験授業の時間割調整が困難 (5校)
 - ② 椅子や机の高さは調整可能 (3校)
 - ③ 椅子や机の高さが合わない児童生徒がいる (3校)
 - ④ 使用する器具が異なるため、器具の準備に時間がかかる (2校)
 - ⑤ 器具の種類が多くなり、器具の管理・整備が大変 (9校)
 - ⑥ 特に問題はない (16校)

- (4) 共有している場合、共有のメリット
- ① 学級数・児童生徒数が少ないので1理科室で十分である (11校)
 - ② 中学校籍の理科教員が小学校教員に実験の助言などがしやすい (17校)
 - ③ 実験器具などを小中で融通しあえる (20校)

【美術室・図工室】

- (1) 整備数 1室 (23校) 2室 (37校) 3室 (2校)
- (2) 複数ある場合、使用学年の区分 (1～6年、7～9年など)
- 1～6年・7～9年 (32校)
- (3) 共有している場合、時間割調整などで工夫していることや課題など
- ① 9学年分の時間割調整が困難 (3校)
 - ② 椅子や机の高さは調整可能 (1校)
 - ③ 椅子や机の高さが合わない児童生徒がいる (6校)
 - ④ 使用する備品などが異なるため、授業の準備に時間がかかる (2校)
 - ⑤ 児童生徒の作品などの保管・管理が大変 (4校)
 - ⑥ 特に問題はない (26校)
- (4) 共有している場合、共有のメリット
- ① 学級数・児童生徒数が少ないので1室で十分である (16校)
 - ② 中学校籍の美術科教員が小学校教員に助言などをしやすい (16校)
 - ③ 備品や材料などを小中で融通しあえる (19校)

【図書室】

- (1) 整備数 1室 (37校) 2室 (22校) 3室 (5校)
- (2) 共有している場合、時間割調整などで工夫していることや課題など
- ① 9学年分の図書室利用授業の時間割調整が困難 (4校)
 - ② 椅子や机の高さは調整可能 (0校)
 - ③ 椅子や机の高さが合わない児童生徒がいる (8校)
 - ④ 複数学年で使用する場合、使用するコーナーを分けている (8校)
 - ⑤ 使用する図書が異なるため、図書の管理・整備が大変 (9校)
 - ⑥ 特に問題はない (17校)
- (3) 共有している場合、共有のメリット
- ① 学級数・児童生徒数が少ないので1図書室で十分である (12校)
 - ② 蔵書の管理がしやすい (21校)
 - ③ 小中一緒の図書室で蔵書が増え、児童生徒が読む本の選択肢が増えた (31校)

【保健室】

- (1) 整備数 1室 (36校) 2室 (27校) 3室 (1校)
- (2) 複数ある場合、使用学年の区分 (1～6年、7～9年など)
- 1～6年・7～9年 (18校)
- 1～4年・5～9年 (1校)
- 1～9年 (4校)

- (4) 共有している場合、工夫していることや課題など
- ① 低学年と高学年の相談コーナーを分けている (9校)
 - ② プライバシーに配慮したつくりをしている (15校)
- (5) 共有している場合、共有のメリット
- 学級数・児童生徒数が少ないので1保健室で十分である (8校)
 - 1保健室に養護教諭が2名いるので、さまざまな対応がしやすい (27校)
 - 薬品等の管理がしやすい (15校)

【職員室】

- (1) 整備数 1室 (57校) 2室 (7校)
- (2) 複数ある場合、使用学年の区分 (1～6年、7～9年など)
- 1～6年・7～9年 (3校)
 - 1～4年・5～9年 (1校)
- (3) 共有している場合、工夫していることや課題など
- ① 9年間の区切りに応じて教員の座席を配置している (51校)
 - ② 9年間の区切りに応じて管理職の座席を配置している (22校)
 - ③ 小・中学校別や学年団でも話し合えるスペースを設けている (23校)
- (4) 共有している場合、共有のメリット
- ① 小・中学校教員の相互理解が進む (53校)
 - ② 教職員全体で児童・生徒を見守り・指導することができる (46校)
 - ③ 行事などに学校全体で取り組む体制が整いやすい (43校)

【その他の小中共有スペースがありましたらご記入ください】

- ランチルーム (29校)
- 多目的教室 (35校)
- 多目的ラウンジ (5校)

【教室】

教科教室制 (学習する教科ごとに児童生徒が教室を移動する形) の導入

※特別教室と混同された回答の可能性あり。

- 6 小中一貫教育校設置に伴い、小中の施設共有化等により施設面積が縮小しましたか
- 縮小した (26校)
 - ほとんど変わらなかった (13校)
 - 交流スペースの設置等により増大した (17校)

7 小中一貫校の施設整備に関して課題と思われる点、お気づきの点などございましたら自由にお書きください

- ・児童・生徒の行動観察において、学年区分（ステージ）への帰属意識と校舎のゾーニングとの間に明らかな関連性が見られています。小中一貫教育の学年区分の構成と校舎のゾーニングとの間には密接な関係があり、両者を一致させることが施設一体型校舎の計画における基本的な考え方とし、校舎を児童のアクセスや体格の差を考慮して東側、西側に児童・生徒の生活ゾーンを東、西側に対峙させ、中央に交流ゾーン、北側に共用ゾーン、そして南側を管理運営ゾーンを配置することで児童と生徒及び教職員が一定の距離を置きながらも互いを意識し、「見る見られるの関係」をつくる必要があります。
- ・子どもたちが学年区分（ステージ）の進行に伴って自らの成長が実感できるように、各学年フロアの平面構成や教室環境に変化をつけるなど、施設面から子どもたちの成長段階を演出する工夫が必要です。各学年フロアは小中一貫教育の運営における最も基本的な事項であり、各学年区分の教育内容や運営方法の特徴の違いにふさわしい教室の構成・施設機能を整える必要があります。
- ・本校は施設一体型のため、今までの小学校ではそれがスタンダードだと思ってしてきたことが中学校籍の教員にとってはイレギュラーであったり、単体の中学校では周知しなくてもできることが小学校籍の教職員にとっては理解されていなかったりすることがあった。その解決方法として、本校では学園運営部を中核とし、施設の使用方法や割り当て等も含めてどのようなバッティングや負担が起こるのか、なぜそのような取組が必要とされてきたのかといったことについて事細かに話し合い、確認し合い、互いを理解し合うようにしている。
- ・教室移動時に異校種の教室前の階段を使用せざるを得ない場合がある。休憩時間が異なるため神経を使う必要がある。（時間帯による動線の検討。）
- ・校舎は一体型でもよいが、子どもの動線は原則重ならないような配置が望ましい。小中の時程の違い、事故防止のため。
- ・プールの水位を、プールフロアおよび水の増減で調整をしているが、手間がかかることには違いない。水位自動調整機能もしくは床の上下する機能のある新しいプールが今後必要である。
- ・児童生徒数の増加に伴い、既存の校舎では手狭になってきている。個性的なデザイン・設計の校舎のため、増改築で課題が生じている。10年・20年先の児童生徒数を見込んだ、また急増時に対応できる設備設計が必要であると感じる。
- ・小学生と中学生の発達課題に応じた運動場や保健室など設備の設置が必要であり、すべてを共有できるものではない。
- ・小中で共有すべきものと分けるべきものを、共有した際の利点、問題点を考慮しなければならない。
- ・当初は体育館、運動場は共有で支障はないとの認識だったが、実際小中一貫校がスタートすると、体育の授業時間確保に支障が生じている。

